

北九州市の文化財を守る会

会報

No.31 55. 5. 15

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389
印刷 博文堂印刷所
北九州市小倉北区長浜町2番22号
電話 511-1011



防空壕



名護屋古墳

名護屋古墳の移建及び御真影用防空壕跡

右の写真は新日鉄戸畑工場内にあった名護屋岬付近で発見された古墳の一基の復元です。昭和十一年工場拡張のため整地中、三基の古墳が見つかり、故名和洋一郎さんが調査されました。そのくわしい報告書は戸畑市史第二集、郷土戸畑創刊号その他に記載されています。その後その石や副葬品は戸畑市に寄贈され、市はまた戸畑中学、八幡中学、東筑中学（共に現高校）にそれぞれ一基ずつ寄贈されました。その世話をされたのは当時の民政部長故山手文彦氏でした。氏は元戸畑中学教頭でまた夜宮の珪化木の発見者です。

昭和二十五、六年頃だと思いますが、私に復元して呉れと頼まれ、私は生徒三名余りと共に築造にかかりました。名和さんの実測図と照し合わせてやりましたが図と合わない石が三、四個ありましたが、どうしようもなくなんとか形を整えました。当時他の石が八幡や東筑高校にあることを知らなかったので止むを得なかったと思います。場所は学校図書館の南裏側です。今度写真をとりに行きましたが見られる通り殆んど土砂にうまり羨道も見えなくなっていました。なお副葬品の土器類も学校に保管してあります。

左の写真、やはり戸畑高校の運動場南側崖に造られた防空壕跡です。高さ二米半、幅二米、奥行七、八米位でコンクリート造り今はブロック及び土で入口をふさいであります。この壕は人が退避するものでなく天皇の御真影をここに集め空襲から守るためのものであったと推定されます。終戦までは各学校に奉安殿というのがあり御真影を奉安してあったことは当時の小学生以上のお年の方は御存知のことと思います。昭和十八年夏北九州に初空襲があり、それ以後近隣の街は度々の焼夷弾攻撃を受けて破壊し、戸畑は比較的被害は少なかったものの何時奉安殿がやられるかわからないのでこの壕が造られ、市内各学校の御真影を集めてこの壕に奉安したといわれます。そして各校の校長、教頭が交代で警備に当たったので、当時は死をかけたことだけにこの任に当たった方々は感無量の遺跡でしょう。(戸畑支部長 福田安敏)

バスによる文化財めぐり

第二十回文化財めぐりは、新緑に包まれた求菩提資料館を訪ねることになりました。求菩提研究で有名な重松敏美館長に約一時間の講演をしていただいたあと、館内をご説明していただく予定です。

Table with bus tour details including date (June 15), time (rain decision), departure (8:20 AM), and collection points (Kobayashi Station, etc.).

昭和54年度の会のあゆみ

- 4.28 役員会、総会開催
映画「日本の建築」上映
5.15 会報No.27発行(事務局)
リーフレット「北九州市の文化財」を配布
6.10 第17回バスによる文化財めぐり(久留米市)
6.28 役員会開催
支部自主事業の決定(各支部内所在の文化財調査)
8.1 会報No.28発行(小倉北支部)
会員名簿の作成、配布
9.30 第18回バスによる文化財めぐり(豊後高田市)
11.1 文化財保護強調週間行事
文化財映画映写会の実施(市教委との共催)
7 浅生公民館(11.7)
八幡西市民センター(11.9)
12.15 会報No.29発行(小倉南支部)
1.20 第19回バスによる文化財めぐり(瀬高町)
1.26 文化財防火デー行事参加
3.1 会報No.30発行(門司支部)

催物案内

角笛シルエット劇場

Table with performance dates (June 2-6), venues (Mitsushima Cultural Center, etc.), and content (Shadow Play).

Table listing cultural heritage sites (1-19) and their locations, such as Mitsushima Cultural Center, Umiyama Cultural Center, etc.

事務局だより

昭和五十五年度総会は去る四月二十六日に無事終了しました。
◇会費の値上げが検討されましたが、「役員は三人、会員は一人」の新会費を勧誘し会費収入の大幅増加を図ることで、今年度会費は据置きになりました。皆さんの積極的な協力をお願いします。
◇会報三十一号ができましたのでお届けします。今回は戸畑支部の担当です。
◇次回の担当は八幡西支部で、発行は八月十五日の予定です。
◇文化財資料「北九州市の文化財」、「小倉の森鷗外遺跡」を同封します。ご利用ください。
◇今年度会費(据置き)を事務局に持参することが困難な方は、同封の振替用紙をご利用のうえお早めに納入ください。(年間)
一般会員千円、賛助一口一万円
学校関係千円、一般団体三千元
◇会報充実のため、皆さんの積極的な技芸をお願いします。投稿は支部長か事務局へお寄せください
◇次回の文化財めぐりは九月二十三日(秋分の日)に八女市で行われる重要無形民俗文化財「福島燈籠人形」と周辺の文化財見学を予定しています。民俗芸能としてのあやつり人形芝居を見る機会は少なく、参加者も多いのではないかとバス二台を検討中です。希望者(予定)は六月末日まで事務局までご連絡ください。

新 会 員

Table with columns: 氏名, 郵便番号, 区名欄, 住所, 電話. Lists new members across various districts like 門司区, 小倉北区, 小倉南区, etc.

住所・電話変更

Table with columns: 氏名, 郵便番号, 区名欄, 住所, 電話. Lists members whose addresses or phone numbers have changed.

昭和55年度予算

Large budget table with columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), 費目 (Item), 金額 (Amount), 明細 (Details). Total budget is 1,244,000.

昭和55年度総会を開催

昭和55年度事業計画

去る四月二十六日(土)午後二時四十五分から市立視聴覚センター研修室で、昭和五十五年総会が開かれました。加瀬会長の開会あいさつがあったあと、座長に米津副会長を選んで議事に入りました。まず、昭和五十四年度決算報告及び同業報告があり、審議の結果いづれも原案どおり承認されました。予算案の審議に先立ち、加瀬会長より総会出席者に役員会の審議報告をかねて、『会費の値上げや会報の縮少』を行わずに、「役員は三人、会員は一人の新会員を五月三十一日までに獲得」して、本会のより一層の充実、発展を図ろう」と提案があり、万場一致で了承されました。

- ◇会報の発行
第31号(5月15日、戸畑)
第32号(8月15日、八幡西)
第33号(11月15日、八幡東)
第34号(2月15日、若松)
◇バスによる文化財めぐり
第20回(6月15日) 求菩提
第21回(9月23日) 八女市
◇文案鑑賞会
3月14日(土) 戸畑市民会館
◇文化財資料の配布
「北九州市の文化財」
「小倉の森鷗外遺跡」
◇文化財保護強調週間行事
文化財映画鑑賞会
(市教委との共催行事)
◇文化財防火デー行事

役員紹介
このたび監事の死去に伴い次のかたが後任として新しく選ばれました。
監事 飯田 久雄
辞任 松崎 武俊(死去)
常任理事 伊崎吉兵衛(死去)

54年度会員数及び55年度予定会員数

Table showing membership numbers by district (種別, 区別) for 54th and 55th fiscal years, and current numbers as of May 15th.

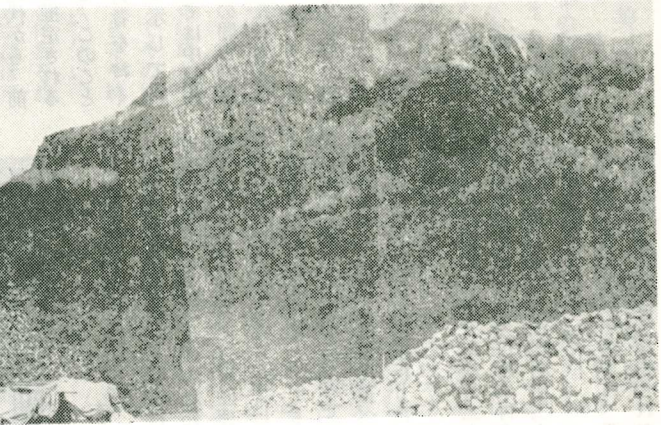
昭和54年度決算報告

Large financial report table with columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), 予算額 (Budget), 決算額 (Actual), 費目 (Item), 金額 (Amount), 明細 (Details). Total actual income is 1,390,000 and total actual expenditure is 1,422,598.

(収入・支出差引残金 176,085円は翌年度に繰越し)

地質時代区分		継続年数	今から何年前
		(単位：百万年)	
新生代	第四紀	沖積世	1~2
	第三紀	新第三紀 古第三紀	70
中生代	白亜紀		70
	ジュラ紀		40
	三疊紀		40
古生代	二疊紀		50
	石炭紀		80
	デボン紀		50
	シルル紀		30
	オルドカンブ		60
先カンブリア代			110
			4000?

(筆者は北九州市文化財保護審議会委員、本会戸畑支部常任理事)



写真③ 妙見山北側より火山岩頸の内部

戸畑牧山に寄せて

八幡東区 小島 忠一

戸畑の古地図を開くと、いつも古代への幻想にとらわれる。そしてメルヘンの世界が開け万葉歌が連想される。

名護屋の大津は響灘に突出した岬の白砂青松であり「鳥旗の澳の名を岬門と曰く」とあるは、洞海湾の入口であるとか……。

戸畑は若松と戸畑の間にあつた中の島、資波島は牧山の旧浄水場のすぐ西の葛島と言う。古代の人々は荒海をさげ、岡水門——江川——洞海——鳥旗と内海水路を通つたと想定されている。戸畑の地名の表記としては、鳥旗、飛幡之浦、戸幡浦、鳥羽田村、戸端等が文献に見え興味をさそふ。そして現在筑前風土記にある鳥旗が町名深いものである。

戸畑には風変りな名の橋がある。その名を「おうまばし」。日立金属(株)の西方三十米の所を流れる新川に架橋されていて、昔から数々の伝説があり、ロマンの橋として親しまれている。

桜の季節にはこの牧山一帯は市民の憩の地として賑う。この橋の名は昔このあたりが名馬の牧場であつたことに由来すると言う。

源平合戦の時に琵琶湖から落下

ミニ火山——黒崎・妙見山

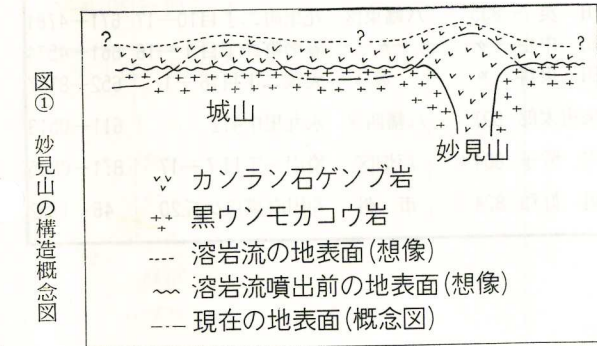
八幡西区 北条 凱生

はじめに
私は昨年、「わたしたちの自然史・第三号」(北九州自然史友の会誌)に黒崎の妙見山火山についての簡単な紹介文を載せていただき、また、市当局にもその保存方についてお願いしました。幸い市当局からは御厚意ある御返事をいただくこともでき、ひとまずは安堵しました。

この度、福田先生からのお話で本会誌にも載せていただくことになりましたので、ここに多少の手を加えて皆様の御理解を得たいと思います。

なお、本稿に使用した写真及び図は「わたしたちの自然史・第三号」に使用致したものです。

八幡東区の帆柱山自然公園付近から北に洞海湾を眺めると、湾の手前やや西寄りに、大小の煙突の林の中にポツンポツンと二個の小さな丘が左右に並んでいるのを見る(写真①)。左の頂上のやや平坦なのが城山で、右手の小さめのが問題の妙見山である。二つとも高さ約五十五メートル、周囲がおよそ一キロの小円頂丘である。



図① 妙見山の構造概念図

この付近一帯は、地質的には中生代の白亜紀とよぶ時代に、それ以前の古生代につくられた地層を貫いて固結した黒ウンモカコウ岩と、さらに新生代の第三紀に、これらの古い地層や岩石を下からつき破つて地表に噴出したカンラン石ゲンブ岩とから成りたっている黒ウンモカコウ岩は、その後の

はげしい風化作用や浸蝕作用で大部分が削りとられ、今では真砂土化したものが城山や妙見山の麓にもわずかに露出しているにすぎない。帆柱山の麓や河頭山付近に露出しているカコウ岩は、これと同種のものである。

マグマの連なる部分が図①のように塔状に露出して出来たものである。

このような形状を火山岩頸とよんでいる。地表部分を顔にたとえれば、マグマの通り道であった火道を埋めた岩石は、顔と地下とを結ぶ首に相当するという意味であろう。

この火山岩頸には節理とよぶマグマが冷却固結する時に生じた規則的な割れ目が無数に入っており、横断面が約二十センチ位の六角柱を束ねたような外観を呈し、岩石塊を柱状に分離させやすくしている。

芥屋大門や呼子の七ツ釜海蝕洞の柱状節理と同じ性格のものでこの妙見山でも見られるのである(写真②)

これら分布地は地質学上は環日本海アルカリ岩石区」と一括してよばれる地域にあり、新生代第三紀末に当時の日本海とその周辺のあちこちに噴出した溶岩流がこれらのカンラン石ゲンブ岩なのである

新世代第三紀末という今から約一千万年程も昔の火山活動でつくられ、しかも今残っている火山としての規模も小さなものであるとはいえず、溶岩の噴出口(火口)と、火道を埋めたまま固結して出来た溶岩の断面が直接観察できる場所がきわめて稀であり、また、火道で固結した溶岩に無数の六角柱状節理が生じているのを観察することは、マグマの冷却固結のありさまを知るので重要なことなのであ



写真② 六角柱状節理の断面

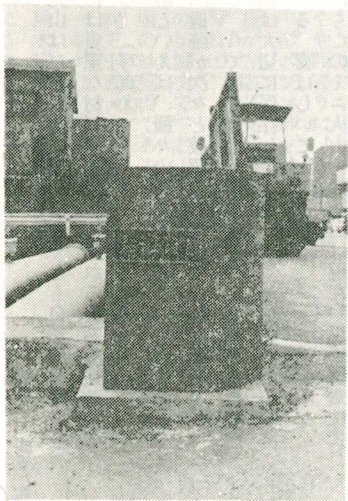


写真① 河頭山より洞海湾を望む

する激流の宇治川を、如月の寒中に乗り切ったと伝えられる名馬「生月」「する墨」の自慢の産地とされている。これに関し他にも名乗る土地が二、三あると聞くが、中世紀の牧山が古くから馬や牛の放牧場であった事として、筑前国遠賀郡牧山が早く名乗りを挙げたことになり、郷土の自慢話の一つでもある。桜の季節には桜花賞などのクラシック競馬フアンの方には関心のもてる土地柄ではないだろうか……。

伝説によれば、馬の母子が牧場のある牧山と、洞海湾を隔てた向い側の若松とに離されてしまい、子馬が母馬との別れを惜しんで毎日この橋付近まで来て、母馬のいる若松の方に向かって悲しむかのようには嘶いていたことである。村人はその姿を見て哀れに思い、いつとはなしにこの橋を、「御馬橋」と名付けたという。

現在の橋は昭和の初めに架け



おうまばし

替えられ、その「御馬橋」が「おうまばし」となった。今もかすかに面影を残しているのか。知る人ぞ知る。車社会の交通量は日増しに激しく、幹線道路として役割を果たしている。

◇ ◇

牧山に連なる近くの堂ヶ峯一帯では、かつて縄文から弥生時代の石器類が採集され、当時戸畑では注目された。また牧山は古墳時代後期の群集古墳地帯を成している。副葬品の中で最も重要なことは、勾玉をはじめ、三角縁神獸鏡より一時代前の先秦時代から、前漢末の蟠蛇文鏡として推定されるものが発掘されている。このことは当地がかなりの権力者をおく集落地であったことを示している。いまなお鏡については中国鏡か、仿製鏡かと専門家の間で話題になっており関心がもたれるところである。

明治末期若松上水道濾過地の記

念碑として、牧山古墳の天井石を利用して建立されており、いままも洞海湾を睥睨している。

ここ牧山から若戸大橋付近を眺望して、私達祖先の生活の場としての歴史の変遷をたどる時、無限のロマンと近代化へのドラマが連想され交錯する。

藩政、明治時代にわたり埋立てられた現在の銀座、汐井一帯そして名護屋岬の臨海工場地帯のさまざまな工場群は、連続と続く民族

塚本 智 両氏を偲んで

戸畑区 福田 安敏

本会戸畑支部の理事、塚本智氏は昨年五月七日心不全の為急死され、本年三月十八日には常任理事伊崎吉兵衛氏が亡くなりました。御両氏の死は本会にとっても、戸畑郷土会でも大きな損失でした。御両氏の事績を簡単に述べさせていただきます。御冥福を祈りたいと思います。

塚本氏は明治三十五年八月二十五日熊本県に生れ、大正六年日立製作所戸畑工場に入社、昭和三十二年無事退社されました。

その間書道に研鑽を積まれ、西部書作展で文部大臣賞を得られたこともあり。そして戸畑書道協会の三代目会長に推薦され、ま

の生活の根拠地として、厳肅な意義があり、限りなく受けつがれることと思う。牧山はその象徴として心の中に存在しているのかもれない。古代から数々の生活の素材を運んでくる響灘からの北風は荒波を牧山に寄せては返し、今昔の脈拍が協和音となつて響いている。牧場の草原はハミングし、さわやかな風はフルートとなり、いつも私達のプロムナードとして無限の世界が開けているのかも……。

伊崎吉兵衛氏は明治三十六年二月戸畑に生れ、小倉工業卒業後大正十年、日立製作の若松工場に入社、優秀な技術を認められ、苅田の圧延機工場の建設課長をされたこともあり。氏は俳句に興味をもたれ、更二隴の号のもとに句作を晩年まで続けられました。そのことで戸畑俳句協会の顧問として斯道の発展に大いに尽力されました。

氏の作を少し紹介します。

小蛙の向う見ずなる跳びころげ
いろ毬のはずみよぎりぬ

独楽の陣
春潮や年輪ふかき杭がしら
門川の蟻にひとすじ砥のにごり
ひぐらしやまだ宿さめぬ神詣で
氏はやはり戸畑郷土会の会員として、また昭和四十九年以來副会長として会の発展運営に尽力されました。

生粋の戸畑育ちだけに、また記憶力も抜群でしたので、先年五年がかりで行われた北九州市民俗調査に委員として、西戸畑地区の貴重な資料を多く採集されました。

郷土戸畑には「戸畑方言考」、「子供の遊び」などを連載され、これは後に一冊の本にされています。

その他色々な思い出から戸畑の民俗関係の発掘をされています。

天籟寺薬師堂とその昇格

戸畑区 安田 富美子

「天籟寺」は戸畑区天籟寺二丁目七の二三にある天籟寺地区唯一の寺で昭和二十六年に「礼拝所」から「寺」に昇格したものである。以前は「お薬師さま」と呼ばれ土着民に親しまれた。私が子供の頃は夏は七夕笹を貰う所、そして盆踊りのある所、冬は二晩の説教に親達について行つては始まる迄を子供同志で遊ぶ楽しい所であった。また托鉢に廻る薬師の坊さんの鉄鉢に、土間の吠から二合半耕に山盛りに入れた米を据え腰で移したのを覚えていた。

この薬師堂について
遠賀郡誌には
○天籟寺薬師堂 寺院帳によれば正嘉元年に建立といわれるが詳細は不明である。

戸畑市史には由緒として
詳ならぬと雖も正嘉元年豊前國企救郡足立村福聚寺の徒弟清竜なる者当堂を建立し慈雲山清竜寺と号しここに來り住す。又開創の初は寄附の畠地等ありしも開基清竜歿後無住となり漸々年を累るに従い散田となりぬ。

とある。
先ず創立について見るに正嘉元年は一二五七年、今より七二三年前である。一方福聚寺（広寿山）

は寛文五年、一六六五年の創立で三一五年前のことである。三一五年前に出来た寺の徒弟が七二三年前に存在する筈か。前記「詳かでない」、または「不詳」とことわつてはいるが余りにも明白な誤りである。天籟寺集落には昔から火除地蔵堂、観音堂があるが、共に正嘉元年の創立とある。まことに杜撰な穴埋め的な記録と言わざるを得ない。

然し若しこの寺が実在したとするならば天籟寺民は挙つてその宗徒となつて今日も受けつぎ守り続けられて来ているに違いない。

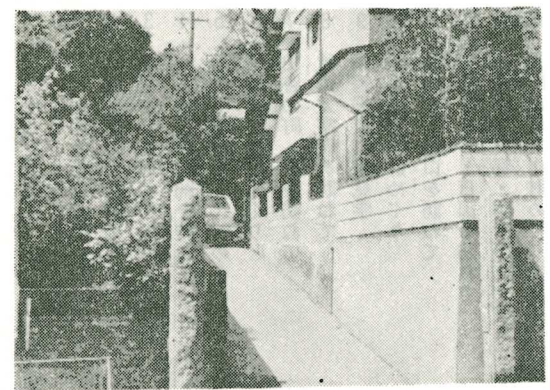
今、天籟寺土着の禪宗徒は海を渡つて若松の吉祥寺を、真宗徒は戸畑とは言え、遠く離れた照養寺を且那寺として来世への導師を求めている。この事実は薬師堂が決してそうした由緒を持つものでないことを物語る一証查であろう。

更に吉祥寺過去帳に
○文久一年 実相貞信法尼
八月十二日 薬師堂成連納品
○慶応元年 佛海浄心庵座
五月十一日天籟寺薬師堂住僧の二筆がある。薬師堂に禅僧が住んでいた事は確かである。明治五年太政官布告が出る迄は禅僧は妻帯を許されていなかった事から、前者の

記されてある筈と思うのだが見当らない。思うにこの僧が小倉に托鉢に廻つていた事実からすればこの人こそ広寿山福聚寺の修行僧であつたのではなからうか。そうすれば既に明治の新政は大名の特権を奪いその一環として菩提寺も解放された時点であれば、その用いは或は広寿山で行われたのではあるまいか。

薬師堂の時代を過ぎて既に三十年。「天籟寺」は三百五十の檀家を持つ堂々たる寺に発展している。昇格を思い立ったのは明治三十五年頃天草から來られた宮崎大導師である。大正五、六年頃東鉄誘致景氣に湧いた戸畑の町の影響で天籟寺も裕福になり、大導師の人柄をも慕つていたムラ人が薬師堂の発展を望んだ事は言うまでもない。

○大正四年西国三十三ヶ所観音像の設立
○大正五年四国八十八ヶ所仏像の設置
○大正七年寄進による石段設置
○大正九年現在の建物に改築
こうして着々と形式を整えたムラ



天籟寺